

タイ人技能実習生(第2期生)の受入れ ～外国人介護人材育成支援事業～

本年4月のタイ人技能実習生(第1期生)に続く、第2期生(8名)が9月16日の入国から約1か月の入国後講習を経て、10月24日から県内の介護事業所5か所で実習をスタートさせました。これから3年間、それぞれの介護現場で福井の介護技術を学びます。

なお、今回の実習生のうち6名は、タイに県内の介護福祉士を派遣して教育を行うなど、本県独自に育成した初めての实習生です。現在もタイの高校と連携した実習候補者の教育を進めており、実習生の確保、安定した受入れ体制の強化を図ってまいります。



タイ人技能実習生受入れ式(令和4年10月5日)



入国後講習(介護)の様子

県内介護事業所の外国人材受入状況について

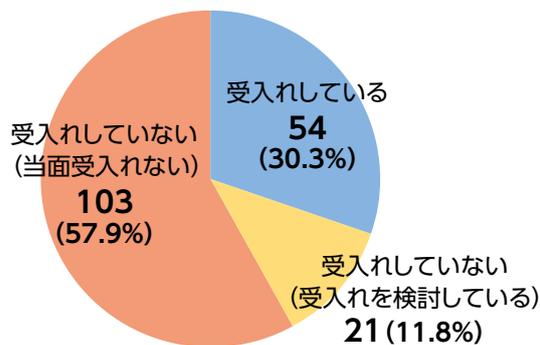
令和4年7～8月実施アンケート調査より

回答のあった事業所では、7月1日現在、外国人介護職員(以下「外国人」という。)を受入れている事業所が約3割(30.3%)という結果でした。なお、介護老人福祉施設(特養)においてはその割合は6割以上(61.5%)となっています。

一方、現在外国人の受入れを行っていない事業所で、「当面は受入れを行わない」とする事業所は6割弱(57.9%・103事業所)でしたが、一方で「介護人材を確保できている」は36.9%にとどまります。人材不足を認めつつ、外国人を受入れることについては、生活指導・監理(46.6%)、経済的負担(27.2%)、職場への影響(26.2%)という点で不安を感じている事業所が多いことがうかがえました。

今回得られた調査結果を基に、外国人受入れに対する不安の解消に努めるなど、本県への外国人介護職員の受入れを進めてまいります。

現在の外国人介護職員を受入れ状況(n=178)



当面受入れしない理由(n=103)

人材が確保できている	38 (36.9%)
人材は不足しているが、外国人受入は生活指導・管理に不安がある	48 (46.6%)
人材は不足しているが、外国人受入は経費的負担に不安がある	28 (27.2%)
人材は不足しているが、外国人受入は職場への影響に不安がある	27 (26.2%)
その他	0

※複数回答であり、割合合計は100%を超える